

平成 21 年 度

事 業 計 画 書

自 平成 21年 4月 1日
至 平成 22年 3月 31日

財団法人健康医学予防協会

平成21年度事業計画

財団法人健康医学予防協会

概況

今後の事業環境を展望すると、昨今のサブプライムローン問題に端を発する労働者を取り巻くアメリカ経済の減速に煽りを受けた景気の低迷に伴う雇用の悪化など社会環境は依然として厳しい。少子高齢化による労働人口の減少、団塊世代の大量退職問題等、受診者数減少は避けられない状況下であり、様々な変化に対応した事業展開をしていかなければならない。健康診断受診者の要請・満足度の更なる向上に対応すべく、各種研修会・講習会等への積極的参加、知識・技能の向上によるスキル強化と、労働環境に応えるシステム作りの整備・構築し、迅速な処理と正確な健診結果報告により、多様化する受診者や契約企業に信頼と安心を得られる事業展開を図りたい。

健診事業計画

開発事業部としては長岡健康管理センターの運営三年目である今年度は、医師、スタッフの充実が図れ、軌道に乗りつつあり、特定健診、特定保健指導等の対応等も整備ができ積極的に施設紹介し事業拡大を図りたい、又新潟総合健診センターに於いては昨年にリニューアルに伴い人間ドックの受け入れを拡大し顧客の増員を図りたい。

1 巡回健診の推進

- (1) エリア毎に担当を設定し巡回健診の推進を図る。
- (2) 長岡健康管理センターに渉外担当 2名増員し中越・上越・魚沼地区渉外活動の推進。

2 施設健診の推進

- (1) 新潟・長岡ともに施設周辺の渉外活動の推進
- (2) 長岡センター

- ・ 長岡健康管理センターの運営により中越・上越・魚沼地区の渉外活動の強化と既存顧客管理の徹底を図る。
- ・ 常勤医の確保により午後健診の充実。
- ・ 定期健診について午後へ異動。午前のドック・生活習慣病の増員。
- ・ 特定健康審査(被扶養者)の積極的な取り込みを図りたい。

- (3) 新潟センター

- ・ 健診センター増築により(受け入れ枠増)新規顧客の拡大と既存顧客(配偶者等)からの掘り起こしを図りたい。
- ・ 特定健康審査(被扶養者)の積極的な取り込みを図りたい。

平成21年度 施設売上目標

		H18年度 売上	H19年度 売上	H20年度 売上予想	H21年度 売上目標
長岡センター	売上	316,825,986	370,420,602	426,340,296	472,678,904
	前年比		116.9%	115.1%	110.9%
新潟センター	売上	348,340,463	405,079,015	461,013,846	511,121,096
	前年比		116.3%	113.8%	110.9%
合計	売上	665,166,449	775,499,617	887,354,142	983,800,000
	前年比		116.6%	114.4%	110.9%

施設健診:過去2年 15%の伸び率があり、H21年度も同様の伸び率を予想するものです。

健診部に於いては信頼される健診機関としてスタッフの充実とともに機器の充実も不可欠であり、当年度も計画的に順次更新を図りたい、特にX線撮影装置のデジタル化を昨年度より施設に於いて実施しましたが、今年度は巡回検診車についても計画に沿って実施したい。

検査精度の維持・向上を図る為、特に胃部レントゲン・腹部超音波検査等症例検討会を実施し技術及び知識の向上を図りたい。

検討機器名

機器名	台数	
① 胸部レントゲン (GDR-1000)	2台	▶ デジタル化により、情報管理部の業務軽減につながる
② 胃部レントゲン (GDR-M)	2台	
上記装置のQR読み取りシステム	4台	
③ 骨密度(超音波)	2台	
④ 肺機能測定器	2台	
⑤ 眼底	2台	▶ ポラロイドフィルム廃止、特定健診追加検査で使用のため
上記装置のQR読み取りシステム	2台	

各種研修会への参加計画

開催月	学会・研修会名	人数
7月	胃X線検査レベルアップセミナー 日本消化器がん検診学会 関東甲信越地方会放射線部会	3
8月	特定保健指導実践者育成研修会 (社)全国労働衛生団体連合会	1
	乳房超音波を学ぼう！ ソニックジャパン	3
10月	乳がん検診セミナー 新潟県・新潟県医師会・新潟県成人病予防協会	2
	腹部エコーハンズオンセミナー Us-ism	2
11月	新潟県糖尿病検診研究会総会 新潟県糖尿病検診研究会	3
	超音波検査技術講習会 (社)全国労働衛生団体連合会	1
12月	超音波・スクリーニング研修講習会 日本総合健診医学会・日本消化器集団検診学会	1
	マンモグラフィ撮影技術講習会 日本対がん協会	3
	大腸がん検診セミナー 新潟県・新潟県医師会・新潟県成人病予防協会	3
1月	心電図ファーストステップアップセミナー ソニックジャパン	1
	VDT健康診断実務講習会 (社)全国労働衛生団体連合会	1
2月	生理機能検査講習会 (社)全国労働衛生団体連合会	1
	初心者のための腹部超音波検査実技講習会 日本消化器がん検診学会 関東甲信越地方会	2
	成人病検診従事職員研修会 新潟県成人病予防協会・新潟県医師会	10
3月	肺がん検診セミナー 新潟県成人病予防協会	1
	新潟県消化器撮影技術研究会 新潟県消化器撮影技術研究会	3
	消化器造影技術研修会 日本消化器集団検診学会 関東甲信越地方会	1
	医師・診療放射線技師等専門講習会 (社)全国労働衛生団体連合会	1

企画管理部は効率的な巡回健診計画の策定と健診事故防止に努める。健診受診者数に合った医療機器台数・医療従事者数の適正配置・移動距離・移動時間等効率の良い巡回計画の作成。平成19年度より組織運営しているリスクマネジメント委員会[担当事務局]の元、事故トラブル・ヒヤリ、ハットの防止に努める。

情報管理部は平成20年度より実施している特定健康診査等を考慮した受診票の作成や当会健診システムの抜本の見直しの初年度とし、健康保険組合・共済組合等の要望や契約顧客からの依頼等を正確且つより迅速に健診結果報告ができるシステム構築を図りたい。

公益事業

研究題名

骨粗鬆症骨折患者における片脚立ち訓練の有効性についての検討

目的

高齢者に対する開眼片脚立ち訓練が骨密度の維持、改善に有効であるとの報告がされ、「ダイナミックフラミンゴ体操」として紹介されている。本研究では骨粗鬆症患者さんに対して左右1分ずつの1日3回の片脚立ち訓練を実施して半年間の転倒、運動機能改善効果について調査し、ホームエクササイズとしての意義を検討する。

対象及び方法

75歳以上で片眼片脚立ち15秒以下のいわゆる運動器不安定症後期高齢者に対して「ダイナミックフラミンゴ体操」を指導して6ヶ月間の訓練期間を設定し、その前後での運動機能評価(片限片脚立ち時間)、骨粗鬆症QOL評価質問表、期間中の転倒発生頻度について調査する。訓練非実施群として通常の経過観察高齢者について同様の調査を行ない、比較検討する。

予想される結果と研究の意義

6ヶ月間の「ダイナミックフラミンゴ体操」によって運動機能の改善効果と転倒不安などのQOLの向上が得られる。

寝たきり予備軍と考えられる運動器不安定症の後期高齢者に対する「ダイナミックフラミンゴ体操」は低リスクで容易にどこでも行える訓練であり、普及させることで高齢者のADLの維持、健康増進、介護予防に寄与する。

本研究では骨粗鬆症患者に対するホームエクササイズとしての「ダイナミックフラミンゴ体操」のエビデンスの確立を目的とする。